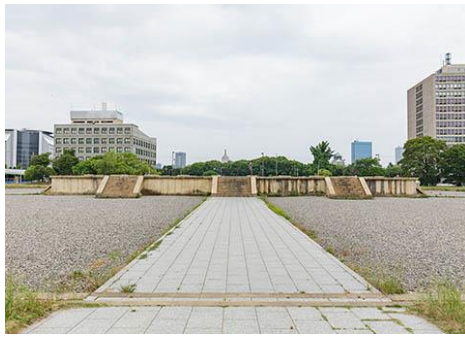




文献4：七世紀半ばから八世紀にかけて、大化の改新に始まるわが国の律令制国家の形成期は、建築史においてもきわめて興味深い時代である。政治体制の確立の舞台として、大陸風の都城の思想が導入され、**国家の中心となる計画都市が次々と建設された**。なかでも難波宮は、わが国における計画都市の鳴矢ともいえる難波京の核となった宮殿であった。藤原京、平城京、長岡京などと深い関連性を有し、また、**のちの大都市・大阪の歴史的母胎として、都市発展史を考える上でも重要な建造物**である。こうした難波宮の歴史的意義にいち早く着目し、遺構発掘に情熱を傾けた故・山根徳太郎氏をはじめ、その業績を継がれた多くの方々の努力により、今日、難波宮はようやく往時の姿をわれわれの前に現わそうとしている。（in よみがえる都市の源流 難波宮（後期）の復元 監修：澤村 仁、協力：財団法人大阪市文化財協会、復元：大林組プロジェクトチーム） また、文献4は、**1.難波宮と古代都市・難波（大化改新と難波長柄豊碇宮、古代都市・難波の歴史的背景、孝徳朝から天武朝における難波宮、前期難波宮の復元試案、「難波京」とその成立時期）、2.後期難波宮と難波京の盛衰（聖武天皇と難波宮の再建、ウォーターフロント・難波の繁栄と終焉）、3.後期難波宮の復元（復元の概要：・全体の構成、・建物について：①主要建物：・内裏、・大極殿院、・朝堂院、・朝集堂院、②門、回廊、塀・門・回廊および築地塀、③細部の建築的特徴：・屋根、・基壇、・柱、・その他、工程と工費、作業を終えて）、これらの項目で構成され、検討している。**